

広報7月号でお知らせした写真展「戊辰戦争と水戸藩市川勢の軌跡」が、8月7日(火)から22日(水)まで公民館市民ギャラリーで開催されます。(月曜日休館)



のさかふれあい祭りでの「庄八」踊り(今年の祭りから)

盆踊り歌

庄八と権左

匠探訪

庄八は「堀川生まれの庄八が、縁に引かれて野手村へ」と歌われ、出生地と縁付いた村が明らかになっていきます。漁師となった庄八は、ある年の11月6日漁に出て遭難、妻らの必死の願いもむなしく「庄八命はたまらない」と、水死してしまいました。

盆踊りが先祖供養、とくに新しい仏死者を地域の人たちで供養する意味があるとされることから、水難死した庄八や嘆き悲しむ妻が歌い込まれたのでしよう。かつては庄八の墓もあつたといひ、実存はまちがないといえます。

「庄八」は、1921年大正10年(の)匠磋郡誌には、盆踊り歌として載っています。しかし、同時代の他の資料には見られないので、歌われた地域は限られていたのでしょう。「権左が西国」は同書には「芒打歌」、大正6年出版の海上郡誌では、麦歌として記載され、農民が仕事をしながら口ずさんだのでしょう。

「権左が西国 長の旅する

あとではお方が お茶の水汲む」の歌詞から、権左は伊勢や西国参りに出たものの妻のもとには帰って来なかつたことが連想されます。盆踊り歌の「権左が西国」の歌詞の一つに、「米倉西光寺・・・」とあることで、米倉(中央地区)生まれとも考えられますが、確かとはいえないものの実存はしたでしょう。

「庄八」が物語り風であるのに比べ、「権左が西国」は七五調の歌詞が取り入れられています。

盆踊り歌は、夜を徹して踊るためにえんえんと歌い続けられるので、いろいろな歌詞が取り入れられました。

籀木(旭市)酒屋の 嫁の寝言に この米つかずに 酒になればと

東金(東金市)茂右衛門 嫁はどこから なくて江戸から

などと当時の話題や近隣の名所などが歌い込まれています。

現在、民謡として歌われている曲の多くは、明治末から大正にかけて整えられ、大正10年に民謡の全国大会が開かれたのを機に昭和初期からブームが起つたとされます。

関八日市場図書館 ☎73・3746

庄八と権左は、ともにこの地域の盆踊り歌に登場する人物です。

昭和49年に八日市場の盆踊り歌「権左が西国」「庄八」「東上総」と踊りが県の無形文化財に指定されました。それを機に、庄八と権左は曲名のかたちで知られることになりましたが、はたしてこの二人は実存したのでしょうか。